



NO.454

R7年6月1日

-発行-

〒869-1217

熊本県菊池郡

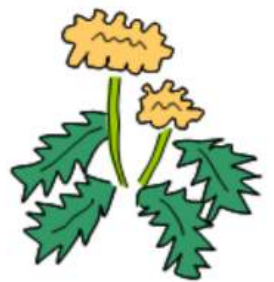
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



「はたらく」

理事長 松田 健

ふんぞりかえり、あごで人を
使うようになった時は、仕事を
やめようと思っていました。偉
そうなことを言って、自分は何
もせず、部下へ理不尽な命令ば
かりする。見下し、敬意がなく
過重な負担を与え続ける。馬鹿
にした笑みを浮かべている。嘲
笑以外の何物でもない。そうなっ
たら終わりだと思っていました。
二、三十年前、福祉の業界では、
そういう人たちも皆無ではなかつ
たので、あんな風にはなりたく
ないと思ったのも事実です。し
かし、他人のことを言うような
資格がない人間です。人格も伴っ
ておらず、能力もありません。
若気の至りでした。自分も歳を
とっていくとフットワークが悪
くなり、昔だともっと頑張って
いたことが出来なくなっていま
いました。「思えば遠くへ来た

もんだ」(清香園の山内統括施
設長お疲れさまです。勇退され
たと聞きました。以前「思えば
遠くへ来たもんだ」という題で
機関誌に書かれていたのを覚え
ています。感銘しました。)と
つくづく実感するようになりました。

働いていると年を重ねても、
言われたならイヤな言葉があり
ます。自分では自覚なく相手に
イヤなことを言っている場合も
あります。言われた時は被害者
となりますが、言った時の加害
者の意識は全くないものです。
相手の立場に立つということは
実はとても難しいことだと思ひ
ます。「自分がイヤなことは他
人にしない」というわかりきつ
たことができないのが我々であ
るということを自覚することで
改善できるかもしれません。

「はたらく」とは、はた(ま
わり)を「楽」にするものであ

るといふ言葉があります。だか
ら、はたらくだと。自分ではな
にもせず他人にばかりさせる人
中途半端な仕事をするため周り
がフォローして、かえって周り
の仕事を増やす方、全く仕事を
しないので周りが全部かぶって
しまふ、はたらくにならず、は
たら苦、周りは苦しんでいます。
はたらくでなく、はた泣く場合
もあります。あくまでまわりが
楽になるような仕事をしていき
たいものです。

三気の里では、利用者さんの
作業で、自動車の部品の組み立
ての一部(軽作業)を行ってい
る班があります。プラスチック
製品にパッキンを丁寧にはめま
す。また、手もぎ作業といって
プラモデルの部品をもぐのと同
じようなもぐ作業をしています。
受注作業です。どの車のどの部
分なのかは企業秘密のため教え
てくれません。一つの工程で終

わるため、わかりやすく達成感
が得られると思います。工賃は
安いのですが、車の一部を作る
ことに関与しています。作業を
することで世の中の役に立って
います。車があると楽です。は
たらくことで、はたをらくにし
ています。車を作る上で必要と
されています。期待されていま
す。生きていて期待される存在
であることはとても貴重なこと
です。やりがいがあります。ま
た、はたらくことへの利用者さ
んへの敬意を強く持ちたいと思
います。

今回三気の里で行っている一
つの作業について書きましたが、
他の班の他の作業もすべて世の
中の役に立っています。みんな
矜持をもってほしいです。利用
者さんですがスタッフの皆さ
んも利用者さんやスタッフ同士
への配慮、気配りがあります。
そうして、はたをらくにしてい
ます。



車部品のパッキン(ゴム)はめ



6月



『想いを知ること』

先日、通所利用者さんの引き継ぎの時に保護者の方から「施設で働くには資格は必要ですか？」と尋ねられました。話を聞くと、「今の仕事を退職したら、時間がある限りこの子の側にいたいと思って聞いてみました」と話されていました。この話を聞いて、三気の里に入所されている方の保護者の皆さんは、いつも側に居られない分、帰宅時には精一杯の愛情を注いでいるのではないかと感じています。何故なら、利用者さんが自宅から帰って来られる日は、表情が豊かで、満足して過ごされていたのだろうと窺えるからです。

生活の質(QOL)の向上が求められています。利用者さんの『楽しみ』『生きがい』を知って、その人となりを理解できるように再度勉強し、改めて利用者さんと保護者の皆さんの気持ちに寄り添った支援を続けていかなければならないと感じました。

1班 支援員 園田真紀

『お楽しみの給料外出』

利用者さんにとって楽しみの一つである給料外出の日がやってきました。2班の皆さんは普段から自分の作業にプライドを持って取り組まれています。そんな皆さんもこの日はいつもと目の色が違います。普段はのんびり進める利用者さんも、手を急がせて作業をされます。午後になりバスに乗り出発の時間がやってきました。出発です！Aさんは毎回板チョコを買われます。違うお菓子を勧めても必ず手に取り変える事がありませぬ、大好きなのでしょう。飲み物はコーラの小サイズを選び取ります。大サイズを買われる方が多いなか、小サイズを選ばれる所はすごいと思います。飲み切れる自分の適量をわかっている事に感心します。それぞれ好きなお菓子、飲み物を買われ、笑顔満開で食べられる様子を見ると私達も笑顔になります。この幸せな笑顔を持続出来るよう、利用者さんと共に頑張る作業を進めて行きたいと決意した一日でした。

2班 支援員 中村照美

『折り紙が好きなAさん』

Aさんは折り紙の本を沢山持っています。以前は難しい折り方の物は、私が折ってAさんに渡していましたが「それじゃあ意味がないの。一緒に作ってよ！」と言われたことで、一緒に作る時間を設けました。Aさんと私で、ゆっくり1工程ずつ折っていき、キャラクターの折り紙ができると、2人で達成感と喜びを分かちあい、晴れやかな気持ちになります。「こりゃ難しかね〜」と、言われるAさんに「脳トレにもなりますね！」と励まし、話をしながら折ります。お喋りをしながら一緒に折り紙をする、この時間が楽しくて、大切な時間だと思っています。Aさんも「藤本さんと、こうやって折り紙をしている時間が一番楽しいよ」と言ってくれます。Aさんとのこの時間を大切に、これからも沢山の折り紙と思い出を作って行きたいと思っています。

3班 支援員 藤本身知子

『よろしくお願いします』

4月から4班に入られたNさんをご紹介します。

ご自宅より週3回ご利用頂いています。以前は他の班におられましたので、最初は戸惑いがみられました。ですが今では少しずつ4班にも慣れてこれ登園時には挨拶も返され、笑顔もみられようになりました。利用者のKさんが「こっちに座って」と手招きされると隣に座られるようになり、入浴もKさんと一緒に。Kさんに「先輩ですね」「男性利用者が増えましたね」と言う嬉しそうに照れたように「うん」とおっしゃいました。4班の皆さんより10歳ほど若いNさんです。新しい風を吹き込んで下さるでしょう。私もNさんにとって居心地のいい場所となるように頑張っていきたいと思います。Nさん、4班を楽しんでいきましょうね。

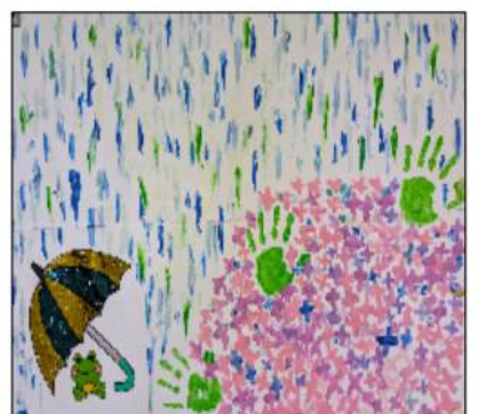
4班 支援員 芹川久美



『経験すること』

5班では可能な限り、週に一度創作クラブを開催しています。今までの作品も作業棟の壁一面に飾っており、たんぽぽや事務所にも作品をおいてもらっています。昨年度制作した、四季のイメージに合わせて5班利用者全員で色を塗って、文字を描いた作品はBeTREEにも飾ってもらっています。元々利用者の中には創作活動の経験が少ないことで、絵の具に触ることに抵抗がある方、紙を渡されてもどうしていいかわからない方もいらっしゃいました。付き添い、一緒に取り組んだり、絵の具で自由に書いていいことを伝え経験してもらいました。定期的を開催することで慣れていかれ、今では時間になると何をやるのだろうと興味を示してくれる方も増えています。今年度も様々なアイデアを考えて創作活動に活かしていきたいです！もし、お時間ある時は5班の作品を探してみてください！

5班 主任 石原 佳奈



療育雑記

「心はゴム毬(まり)」

主任 小城 崇

今でも通院に行くと、『病院内はマスク着用をお願いします』という文言が見られます。

三気の里ではコロナ禍で、コンビニの移動販売企画時にマスク着用の練習をしたこともあり習慣になっていることではあります。しかし、口の周りや肌感覚が過敏な方にとって是不手なことであることには変わりません。このこと一つをとっても、未だに制限されていることには変わりありません。

『心はゴム毬(まり)』という言葉を、本で読んだ覚えがあります。本の名前は忘れしました。内容はうる覚えですが、次のようなことでした。

・無理をしてはいけない。心はゴム毬なんだ。

・(ストレスや重圧等で)押さえつけられれば、(ゴム毬は必ず跳ね返そうとする。

・適度にガス抜きをすることが(節制やストレスと付き合う)長続きするコツなんだ。

当時としては海の物とも山の物と

も分からないコロナウイルスから命を守るため…やむを得ないことではありましたが、制限された利用者さんの生活は、まさに心を押さえつけられるものであったと思います。私自身も罹患し、ホテル療養で缶詰生活を経験しました。この生活の中で私が思ったことは、制限された生活を続けることは、この後の利用者さんにとっては非常に危険なことが起こるのではないかということでした。ストレスで押さえつけられたゴム毬(心)が、どんな方向に跳ね返そうとするのか、跳ね返りがどういった形で表れてくるのか、全く予測がつきませんでした。

現在では極端な制限はなくなりました。様々なことが再開になったことで、冒頭のコンビニの移動販売は終了しました。元の生活に戻ったという方がいますが、新しい生活様式がその中に入っており、完全に元の生活に戻った訳ではありません。心にかかるストレスや重圧も同様です。制限がない筈が、場面ごとでその制限が復活してしまう。そのことで、どれだけ予測できないことが起こるのか。

利用者のAさんも同様でした。見通しが立たない生活を送る中で、楽

しみであった帰省や自分で選ぶことができる買い物が中止になっていきました。私たちも具体的な日時で「いつ頃帰省できるのか」等、予定を伝えられないことで、悩みました。先が見えない生活の中で、Aさんの不適応行動の表出が見られていました。その中での策として、感染症対策を行った上で、お弁当屋さんに行き、Aさんの希望する弁当を購入し、園内で食べるという「プチ外出」のようなことを行いました。本来であれば「外食をしたい」、「生活必需品は自分で買いたい」という想いがある方なのですが、当時はまだリスクがあったこともあり、Aさんには説明を行い、何とか納得してもらいました。「自分で商品を選ぶ」、「お金の支払いをする」という行為がAさん本人の中で、「適度なガス抜き」になったようでした。

「楽しみ」であることは言い換えれば、「興奮の素」「刺激」でもあります。前回の療育雑記に生活の質(QOL)の向上ということが記載されていました。刺激を回避することが支援の中では「環境の調整」ではありますが、生活の質の向上を図る為には、その「楽しみ」、「プラスの刺激」を共有することが大切なの

ではないかと思えます。「楽しみ」、「プラスの刺激」を目標にすることで、毎日の生活にもメリハリがついてくると思うのです。

残念なのは、目標の「楽しみ」、「プラスの刺激」は、体験後に満足度をAさんは表現しにくい、スタッフに上手く伝えられないという点です。同じような「楽しみ」を毎回経験すると、マンネリ化になってしまいます。マンネリ化は、日常の一部となり、Aさんにとっては「楽しみ」ではなくなる可能性があります。

同じ内容の支援を提供する、「変わらないこと」も大切だと思います。しかし、一歩踏み出して新たな「楽しみ」を経験してもらうことも、満足度や生活の質を向上する要因なのだと思います。更に改善できる場所を探さなければと感じています。

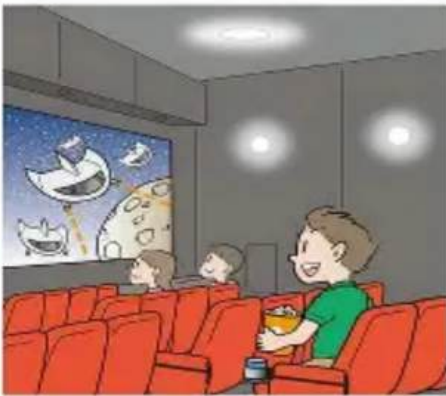


のE便利

「アーティスティック」

世話人 中村 奈実

これまでGHでは余暇時間に様々な活動を行ってきました。ドラマイブや散歩の他に、カラオケや映画鑑賞会、おやつ作り等色々なことを楽しみながら取り組んできました。Tさんは、園内で作業時間の合間にスタンプと絵を描いて、GHに持って帰ってこられました。Tさんが描かれたひまわりは水色や青にオレンジや黄色といったカラフルな花びらで、Tさん自ら色を選択し、描いたとのこと、とても色鮮やかで芸術的な作品でした。スタンプから「すごいですね!」「上手ですね!」と声を掛けられると嬉しそうな表情をされ、「〇〇さんにも見せます」と色んな人に見てもらいたいと言われていました。Tさんは絵や字を描くことが苦手だと思っていたので、私自身創作活動をすすめたことが今までなかったのですが、Tさんの新たな才能に驚き、楽しそうな様子を見てみると、この活動をGHの中でも取り組んでいき、皆様の余暇活動の充実につなげていきたいと思っています。



相談たんぽぽ

「本日、気分良し」

相談支援専門員 立花 訓子

褒められたとき、人間の脳ではやる気を生むドーパミンや幸福感を生むセロトニンが分泌され、前頭前野のやる気に関わる部位など脳の広い領域が活発になると言われています。さらに、「褒められたとき」にも、褒められたときと同様に脳が活発になるそうです。

先日行われた担当者会議では「いいところ探し」「できたこと探し」が内容の大部分を占め、普段からしっかりとご本人を観察していないと気がつかないようなことや、新しくできるようになったことを教えていただきました。ご本人の成長を関係者全員で褒め合うことで、聞いていただけの私の脳も活発になったような気がして、気分よく会議を終えることができました。

言葉とは使い方によっては相手を苦しめるものにも喜ばせるものにもなります。

言葉を扱う私たち相談員は、自分の発する言葉に常に気を配る必要があります。ドーパミンやセロトニンとまではいかなく

ても、参加者全員が「ちよっと気分良いな。」と思って帰ってもらえる様な会議や面談を増やしていきたいと思っています。



6月スケジュール

01(日) かくたつ研修 ~3日(火)
 02(月) ワックスがけ(GH)
 06(金) 芸術クラブ
 07(土) チャリティボウリング
 13(金) 三気の会評議員会
 14(土) 家族会・イベント食
 17(火) 田中Dr.ケースカンファレンス
 18(水) 1班レクリエーション
 19(木) 嘱託医来診
 非常勤スタッフ研修旅行

20(金) Let'sリハ
 26(木) 3班レクリエーション
 27(金) 健康診断
 28(土) わっふる後援会・イベント食

毎週月曜日 訪問理容サービス
 毎週火曜日 BeTREE役場販売

BeTREE
 <営業時間>9:30~17:30

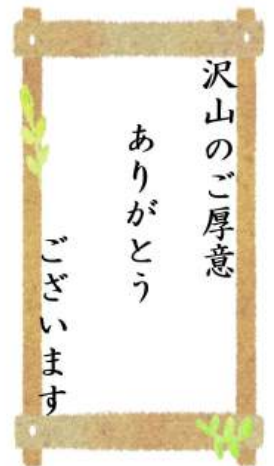


betreeJ14

【後援会】
 岩崎 昭彦様
 吉田 憲司様
 中田 康則様
 高森 井栄様
 井上 優様
 堀内 與様
 松本 麻耶様
 山崎 日出男様
 山下 ちづる様
 森川 マサミ様
 藤原 芙佐子様
 佐藤 由美子様

【寄付物品】
 園田 真也様
 赤星 央子様
 梶原 大介様
 魚谷 秀文様
 櫻木 勇夫様
 松村 俊介様
 渡邊 正司様
 米村 秋江様
 坂梨 清美様
 金森 保様
 井上 優様
 小牧 博則様
 宮本 眞一様
 春野 宗敏様
 清田 栄一様
 中村 秀隆様
 米田 孝一様
 田中 満子様
 井手上 昌子様
 東坂 富士代様
 井上 ちえ子様
 上田 タキ子様

【寄付】
 岩本 ヒサ様
 松田 健様



【後援会】3月31日分
 東矢 真明様 児島 清和様
 高橋 頌慈様 上田 タキ子様
 國本 陽子様 樫本 貴美子様

4月号にて掲載漏れがありました。大変申し訳ございませんでした。

山田 美貴子様
 福島循環器科内科医院
 福島 敬祐様



ジメジメとした鬱陶しい季節がきました。毎日雨が振り続くこの時期になるとメンタルが弱くなりがちです。そこで、何か気分転換になることを、と考えますが、趣味が乏しい私にはなかなか思いつきません。

また、6月のイメージカラーの1つに蟹島染色(かにとりぞめいろ)という色があります。これは、夏の到来を思わせる涼し気な青色だそうです。色名の「蟹島」は昔、生まれたばかりの子どもに初めて着せる産衣を指してたそうです。なかなか想像つかないですが、初夏の晴れた空のような薄い水色だと思います。

吉田理江

編集後記